

令和4年度 幼児教育研修（年齢別担任研修4歳児）全3回まとめ
「子どもの発達と保育者の関わりについて」

講師：和泉短期大学 教授 松山 洋平 氏



「子ども理解」は保育の基盤

子ども理解とは？ 子どもとの関わりの中で、その子の思いや考えを受け止め、育ちやその子らしさを理解しようとする事

- ① 内面の理解…子どもの思い、行為の意味、興味・関心などを、前後の文脈や状況などを踏まえて子どもの気持ちに寄り添うこと
- ② 発達の理解…子どもの発達に即して、その時期にふさわしい活動や援助を考えること
- ③ 関係性の理解…子ども同士の関係、保育者、親、きょうだいとの関係なども考慮して行動を理解すること

- ◆子どもは、大人がもっていない豊かな感覚で生きている「敬意を払うべき存在」である。
- ◆固定的な見方を見直し、新たな価値観を受け入れ多様な見方をすることが大切である。
- ◆「～ない」「～べき」から出発しない。子どもの「内面」や「今あること」に目を向ける。

肯定的に受容しながら関わることにより、関係性が構築される → 信頼関係

子どもが育つ環境と保育者の役割



保育者の役割 ◆間接的な役割…子どもの発達や興味・関心を捉え（子ども理解）、必要な環境構成をする。
◆直接的な役割…子どもと共感的に関わりながら、自身も環境として子どもを支えていく。

どちらも、保育の専門性として重要であり、保育を創り上げていくおもしろさや醍醐味でもある。

ひと・もの・こと・ば
と出会うことで、子どもの心が動き出す

4歳児の姿

★社会性の育ち

ルールを理解し始め守ろうとする

★わかっているけれど、そうできない自分
自己中心性と自己抑制の間で心の揺れ
や葛藤が起きる

前頭前野（我慢）の機能が変化する時期

★誰かと一緒に遊ぶことが楽しい

楽しいから一緒にいたい

誰かとやる方が楽しい など

思わず「対話」したくなる
環境が大切！対話を通して
「探求」が生まれる

わくわく
ドキドキ

主体的で対話的な学びを支える
「保育環境」の基盤となる3つの観点

なんでだろう？

もっと遊びたくなる、
問いが生まれるような環境構成

じっくりと！

子どもが自分で選んだことに
没頭できる時間と空間の保障

そうだよね！

横並びの関係で
共感的に関わる人の存在

保育者は…

- ・大人の価値観を押し付けない
- ・大人がゴールを決めない
- ・試行錯誤を大切に、学びの機会を奪わない
- ・「やりたい」を満足できるまで、子どもと一緒に考え進めていく
- ・プロセスを重視する
- ・育ち合い、響き合いを支える など

受容的・応答的・肯定的な関わりが大切



保育の可視化～子どもの学びや育ちの物語を共有する～

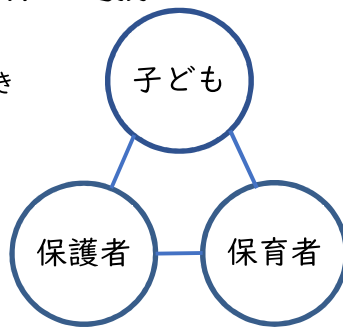
◆保育の可視化は、多様な対話や連携を生む

【子どもにとって】

- ・ 友達のしていることへの気づき
- ・ 新たな興味
- ・ 自分たちの活動の振り返り
- ・ 新たな問い

【保護者にとって】

- ・ 保育の「意図」への理解が深まる
- ・ 子どもとの会話のきっかけ
- ・ 家庭と園のつながり



子どもの遊びのプロセスが
誰にでもわかる工夫をする

【保育者にとって】

- ・ 保育の振り返り
- ・ 同僚との語り合い
- ・ 子ども理解 新たな気づき 確認

●保育の可視化の方法●

ドキュメンテーション

子どもの活動や遊び、育ち、学びの姿を、そこに至るまでのプロセスを含めて「見える化」するために、写真など視覚的な記録を用いてつくるもの

- ・ 保育者の主観でエピソードを記録する
- ・ 子どもが経験していることや感じていることを、多様な側面から捉えて言語化する
- ・ そこに至るまでのプロセス、環境構成、保育者の援助などを記録する
- ・ 今後の展開や保育者の願いを記録する
- ・ 保育者だけではなく、子どもや保護者との「対話」のツールとなる

保育ウェブ

子どもの遊びや活動において大切にしたいキーワードを中心に、興味や関心を読み取りながら、連想される事柄（新たな遊び・活動・情動・必要な環境など）を、連続的・発展的にくもの巣状に書き加えていくもの

- ・ 子どもの主体的な姿（発想、つぶやき、興味・関心）を重視する
- ・ 一人で作成するのではなく、複数で作成する→子ども理解の多様性、保育者の相互理解につながる
- ・ 保育経験や保育観に違いがあっても、取り組みやすい



『主体的・対話的で深い学び』を支えるために

★子どもの「選ぶ・決める・試行錯誤する」を保障する

子ども理解→環境構成→保育の可視化を丁寧に繰り返し、

たくさんの「対話」を通して、より深い子ども理解につなげる。

“思わず”を引き出す環境を計画的に構成し、子どもの遊びや学びを支える。

★子どもと一緒にわくわくドキドキする

子どもの姿を見取り、つぶやきに耳を傾け、未知との出会いを共に楽しむ。

子どもがもっているイメージや心もちを大切にする。

研修生の報告書より

必要以上に与えすぎたり、整えすぎたりすることのないように、子どもたちの育ちに必要なものを考え、支える。

考え方や答えを先取りせず、発達段階を考慮した上で見守ったり待ったりする。学びの機会を奪わないことを意識する。

ドキュメンテーションを活用して保育を振り返り、専門性を高めながら、子どもたちと楽しい保育をつくっていきたい。